

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	新潟県阿賀野市における地域住民のフレイル有病率の推移とフレイルへの移行とソーシャルネットワーキングサービス使用との関連
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	<p>【対象】 阿賀野市在住で2019年度に69歳、2025年度に75歳となる住民</p> <p>【研究期間】 新潟大学医学部倫理審査委員会承認後から2028年3月31日まで</p> <p>【過去の研究課題名】なし</p>
③概要	これまで高齢者のフレイル（加齢に伴う心身の衰え）が時間とともにどのように変化するのかとともに、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）使用とフレイルの発生や健常状態の維持にどの程度関係するかを検証した報告は多くありません。本研究の目的は阿賀野市における一般地域住民のフレイル有病率の推移と、75歳時点でのSNS使用状況が高齢者のフレイル関連指標にどのような影響を及ぼすかを調査し、その意義と今後の地域での施策を検討することです。
④申請番号	2025-0293
⑤研究の目的・意義	高齢化に伴い寝たきり予防の一環として、その前段階であるフレイル（加齢に伴う心身の衰え）に対して早期発見・早期介入が推奨されています。新潟県阿賀野市では2011年よりフレイル早期発見の対策として65～75歳の地域住民に対して基本チェックリストによるフレイル検診を独自に行ってきました。以前私たちはどの因子がフレイル発症に関与しているのか、また、フレイルから改善させるための因子を調査してきました（BMC Geriatrics 2024, Clin Interventions in Aging 2025）。 近年は高齢者においてもスマートフォンやソーシャルネットワーキングサービス（SNS）の使用が一般化しつつあり、SNSの利用は社会的孤立の改善、認知刺激、自己管理促進など、フレイル予防に有益な可能性が指摘されています。しかしながら、時間とともにフレイルへの変化を調べるとともに、SNS使用（スマートフォン利用を含む）がフレイルの発生や健常状態の維持にどの程度寄与するかを検証した報告は多くありません。本研究の目的は阿賀野市における一般地域住民のフレイル有病率の推移と、75歳時点でのSNS使用状況が高齢者のフレイル関連

	指標にどのような影響を及ぼすかを調査し、その意義と今後の地域の施策を検討することです。
⑥研究期間	新潟大学倫理審査委員会承認後から2028年3月31日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	すでに取得済みアンケート結果を用いた、参加者に新たに生じる不利益、危険性はないと考えられます。使用するデータは個人が特定されないように匿名化を行い、研究に使用します。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。
⑧利用または提供する情報の項目	阿賀野市在住で2019年度に69歳、2025年度に75歳となる住民で市から送付された基本チェックリストに回答した人
⑨利用の範囲	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座および整形外科
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座 今井 教雄
⑪お問い合わせ先	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座 今井 教雄 025-227-2272 imainorio2001@med.niigata-u.ac.jp